

# G3 のツイッター その68

## 烈剛河内 竹井 保満

朝夕がめっきり冷えてきますと暖かい茶碗を掌で包んで熱いお茶をすすりたいものです。「炉開き」と言う言葉は、茶人が、陰暦の十月の一日か亥の日に、お湯を沸かす風炉を仕舞い、床に炉を開く事です。

この歳になり喉が渴けば施設の食堂の色だけ付いたぬるいお茶やペットボトルのお茶、水道水は呑みたくないです。やはり、お湯を沸かして安い茶の葉を入れて小さい羊羹か饅頭でゆっくりと味わいたいものです。

お茶は、中国から最澄と空海が持ち帰ったとされていますが、呑み方が分からず放置されていたそうです。その後の遣唐使がお茶の入れ方や飲み方の本を持ち帰った説と禅僧の栄西が中国に渡り、中国のお茶の入れ方を習って帰り茶の湯が広まったとの説ですが、栄西が病気がちな頼朝に茶を飲ませ良くなったとの記録があるそうで、栄西が茶の湯を広めた人のようです。

その後、茶の湯の開祖が雨後の筍の様に出てきますが、堺の豪商の千利休が各流派のいいとこ取りをして流派を作ったとされています。利休さんは商売上手で、NHK連続小説スカーレットで有名になった信楽焼の茶碗を焼かせ大儲けしたのも史実にあります。

お茶で大成した利休さんでしたが、お茶の為に切腹させられてしまいます。理由は色々な推測があります。利休さんの侘び寂びが秀吉の金ぴかの茶室と衝突したとか、徳川家康の密偵で秀吉に毒茶を飲ますのに失敗した話や、徳川方に膨大な武器弾薬を売っていたとか、ジャーナリストが入らない茶室でどんなことが話され演じられたか、今のゴルフ外交に似ていませんか。日常茶飯事に頂くお茶ですから、茶室もお道具もなくして形式ばらずに頂きたいものです。

秋の美術絵画展に、アメリカ大統領を描きました。題名は怒鳴度・鄭・虎乱不(ドナルド・ジョン・トランプ)としました。副題として、世界をかき回すガリガリ亡者としましたところ大変好評でした。

今年参加したベンチプレス大会では、地方、全国と参加しましたが、最高齢証明書も頂けませんでした。力と歳の差はM6が出来なければ頑張りようがありません。来年はベンチプレス大会は諦めて、足腰と肩や腹筋を鍛えて投擲5種日本新記録の維持を目標にしたいと思っており、サボらないようにジムの方々に宣言しています。